Gifu Keizai University
岐阜経済大学マガジン
GKU NOW!
vol. 82
2012.August

【特集】2

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会ボランティア

4 被災地 岩手県大槌町の復興と現在も残る課題
5 まちづくり夢・未来会議
6 輝け!アスリートたち
8 キャリア支援課だより
9 現場で学んだことを励みに
10 研究室だより
11 教育最前線
12 キャンパス彩々
14 会計報告
16 交流の輪を広げよう／父母懇談会／教職員人事

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会ボランティア

特集

岐阜経済大学のボランティアへの取組み

いよいよ、第67回国民体育大会（ぎふ清流国体）・第12回全国障害者スポーツ大会（ぎふ清流大会）が近づいてきました!!

岐阜県と包括的連携協定を締結し、スポーツ経営学科を擁する本学は、大学を挙げてこの国体に協力することとしており、ボランティアとして学生を派遣します。

そこで、山田武司学生部長から学生ボランティアの内容や参加学生へのエール、ぎふ清流国体推進局　ぎふ清流大会推進課　大会企画担当の垣添忠厚様から学生への期待のメッセージをいただきました。また、サポートボランティアの学生リーダーや競技ボランティアに参加をする学生に抱負や意気込みを聞きました。

▲実際に障害者スポーツ（卓球）を体験している授業風景

学生の力でぎふ清流国体・大会の成功を！

岐阜県において47年ぶりに、国内最大のスポーツの祭典である国民体育大会「ぎふ清流国体」と、障がいのある方のスポーツの最大の祭典である全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」が、本年9月から10月にかけて開催されます。そして、全国からぎふ清流国体には22,000人の選手・監督等が、ぎふ清流大会には5,500人の選手・役員等が参加をします。

本学においても、ぎふ清流国体・大会の開催のために、陸上競技部、硬式野球部、サッカー部、ボート部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、女子ソフトボール部、バドミントン部、マイスター倶楽部、ソフトピア共同研究室、企業人育成課程及び、ボランティアA受講生、有志学生を中心に教職員も加わり、大学が一丸となって協力をします。協力人数は、ぎふ清流国体では競技補助員として延べ295名が参加をする予定です。また、ぎふ清流大会では、競技補助員として延べ84名、選手団サポートボランティアとして延べ252名、開会式及び閉会式の運営ボランティアとして延べ180名が参加をする予定です。さらに、教職員の中には競技役員として参加をする者もいます。

本学の学生らが行うぎふ清流国体・大会での競技補助、選手団サポート、運営ボランティアは、華々しく表にでるものではありません。しかし、ぎふ清流国体・大会の開催を担い、参加する選手一人ひとりの精一杯の活躍を支え、「輝け はばたけ だれもが主役」（ぎふ清流国体・大会の合言葉）となるぎふ清流国体・大会の成功を導くものです。

参加する学生諸君へ
君たち一人ひとりの力が、
ぎふ清流国体・大会を成功へと導きます。
その誇りを持ってやりとげて
ください!

学生部長
山田 武司 経済学部准教授

ぎふ清流国体推進局　ぎふ清流大会推進課　大会企画担当
垣添 忠厚様からのメッセージ

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催まで、あと1ヵ月と迫ってきました。岐阜経済大学の学生の皆さんからは、両大会の運営を支える運営ボランティア、ぎふ清流大会の選手団を支援するサポートボランティアに200人を超える登録をいただき感謝しております。

岐阜県は、半世紀ぶりに地元で開催する両大会を、「輝け はばたけ 誰もが主役」を合言葉に、県民総参加での盛り上げを目指しています。出場選手と共に、ボランティアもその主役の一人だと考えています。

岐阜経済大学のボランティアの皆さんには、学業以外のところで頑張っていただくことになります。大変な業務ですが、ぜひ、大会に参加する多くの方々との出会いをとおして、一生の宝物を見つけていただきたいと願っています。

障がい者サポートボランティア

「自分から」を常に意識して

髙橋 由衣さん 臨床福祉コミュニティ学科2年　長良特別支援学校出身

国体ボランティアとして参加するにあたり、私は大切にしていきたいことがあります。それは、〝自分から〟を意識していくことです。はじめのあいさつから終わりのあいさつまで積極的にしていくことで、少しずつ相手と向き合うことができると思うからです。

授業の中でボランティアとは、〝何かを「してあげる」ことではない〟ということを学びました。一方的にこちらがしているものではなく、お互いに得られる何かがあるのではないかと私は考えます。

初対面の方と関わっていくことは、今からすごくすごく緊張や不安があります。しかし、今回、国体ボランティアに参加することが、将来、福祉の現場で活かせること、また、これからの大学生活を有意義に送っていくための自分の財産となるよう取り組んでいきたいです。

障がい者サポートボランティア

なくてはならない一員となれるように

山田 勇輝さん スポーツ経営学科4年 浜松学院高校出身

私は国体ボランティアに向けて、ボランティアAの授業の中で、実際にサポートボランティアを行う競技を体験したり、リーダー研修会に参加して、会場へ行き当日の流れや、リハーサル大会の見学をしたりしました。その中で、国体の運営や選手の方が安心して試合を行える環境は、ボランティアの力がなければできないと感じました。試合会場には、様々なボランティアの方がいます。清流大会では、さらに多くの種類のボランティアがあり、手話や要約筆記など細かいところまで様々です。全てのボランティアの把握をしてボランティアを行うことが重要だと感じました。

岐阜経済大学には、サポートボランティアとして、大会期間中選手に付いて活動をする学生が多くいます。積極的に話をしたり、要望があれば岐阜県の紹介をしたりと、試合とは別の部分でもサポートをしなければいけません。今の内に、いろいろな引き出しを持っておこうと思います。岐阜県に来られた選手団の皆さんに気持ち良く過ごしてもらえるよう、頑張りたいです。

障がい者サポートボランティア

「思いやりの心」を忘れずに

渡辺 元さん 経済学科2年 武生商業高校出身

私は、今年行われるぎふ清流大会でサポートボランティアに参加させていただきます。サポートボランティアでは、大会に参加する選手が快適な環境の下で競技を行うことができるように、案内、介助、誘導等を行います。そこで選手との交流を通じて、障がいへの理解を深めます。選手たちは岐阜県を訪れる際、緊張して駅を降りてくると思います。そのときの対応によっては、選手のプレーも変わってくると思います。絶対に選手に不安な思いをさせてはいけません。講義でも人は第一印象が大切だと教わりました。なので、初めから最後まで笑顔を絶やさず、選手といっぱいコミュニケーションをとっていきたいと思います。清流大会に参加されるすべての選手が全力でプレーできない限り大会の成功はないと思っています。それは自分たちサポートボランティアにかかっています。常に「思いやりの心」を忘れず全力でサポートしていきたいと思っています。皆さんで清流大会の成功に全力を尽くしましょう。

競技ボランティア

競技経験・知識を活かせる貴重な機会

稲益 圭一さん 陸上競技部　スポーツ経営学科2年 岐阜商業高校出身

この度、ぎふ清流国体で陸上競技の審判をさせていただくことになりました。国体の審判が決まった時は、日本の最高峰の大会での審判が務まるのかとても不安でした。しかし、国体リハーサル大会において審判をさせていただき、現場経験をすることで、徐々に不安がなくなり、審判員の自覚が芽生えました。

47年ぶりに岐阜県での国体開催となり、中学・高校・大学と陸上競技を続けている私にとって、常に国体開催を意識していました。地元国体に携われることを、とても光栄に思い、一つひとつの役割を責任を持ってやり遂げたいと思っています。

国体は、各都道府県の代表選手による日本のトップレベルの試合が繰り広げられます。選手や指導者の方々を間近で見られるという貴重な経験を大切にし、また大会運営で競技者を支える方々に感謝することを忘れず、今後の競技にも繋げていきたいです。

一つの炬火をみんなで繋ぐ

「大垣市炬火リレー」に参加

8月27日(月)、28日(火)に開催されるぎふ清流国体・ぎふ清流大会大垣市炬火リレーに本学学生が参加します。左掲の5名が、8月27日(月)9時40分頃から、北部水源地(興福地町)～大垣女子短期大学間の約870mを走り抜けます。

5人で力を合わせて
頑張ります!!
沿道からご声援
ください。

清水 政治さん
(スポーツ経営学科4年 三瓶高校出身)

高尾 洋志さん
(スポーツ経営学科4年 八幡商業高校出身)

服部 唯さん
(スポーツ経営学科2年 愛知啓成高校出身)

桔梗 直純さん
(情報メディア学科2年 中津商業高校出身)

塚越 宏貴さん
(経済学科3年 米原高校出身)

被災地 岩手県大槌町の復興と現在も残る課題

7月21日(土)、本学の講堂にて地域連携推進センター主催、震災「復光」シンポジウムを開催しました。震災後、経済学部森誠一教授、樋下田邦子准教授等を中心に、教職員・学生が協力して、特に岩手県大槌町への支援活動を繰り広げて来ました。昨年3月11日の大震災から約1年数カ月。大槌町役場生涯学習課長・図書館長の佐々木健氏をお招きしたシンポジウムを受けて、大槌町の復興の状況、今なお解決されない課題などについて考えます。

「復光」シンポジウムに寄せて

森　誠一　経済学部教授

▲森　誠一 教授

我が国の最大の自然特性の一つとして、地震という大地の揺れ自体と、それに付随する津波という激烈な水の流動がある。地震は、規模を問わなければ、これまで毎年何回も国土のどこかしこの地面を揺らし、平安時代の記録以来、この百年間でも大きな被害を起こしてきた。近年になっても、明治三陸津波(1896年)、昭和三陸津波(1933年)、チリ地震津波(1960年)の3つの大津波が、3、40年ごとに三陸地方を中心に来襲している。昨年(2011年)3月には、東北太平洋岸でプレート地震が発生し、巨大な津波により甚大な被害を、我々は経験したばかりである。これは、まだ気持ちを含め、まったく終息などには、ほど遠い現状である。

災害は未然に防ぎ、起きた場合は最小限に留めることを前提としつつも、同時に洪水や地震・津波による被害は起きるという前提も必要である。生命の確保は保証されなければならないが、それと同等のレベルで土地や家屋への被災をなくすような完璧な管理・整備を現実的には求められないであろう。むしろ今、その生態系の中で人間生活を位置づける、自分が生活する地域の自然環境といかに付き合っていくかの再考こそを、根底の部分では求められているような気がする。

今回のシンポジウムでは、人口の10%の方が亡くなり、市街地の85%が消失という極めて重篤な被害があった岩手県大槌町から佐々木健氏に来学いただいて、津波の体験、公務員としての職務と私的事情にある葛藤、復興に向けてのシナリオと課題、非被災者へのメッセージを聞き、我々非被災者との質疑応答を通じて、今後の我々が成すべき方向性を模索する機会となっただろう。また、そうした場を広く設けること自体に大学としての役割もあるといえるだろう。震災後1年数カ月が経ち、忘れるように報道も激減しているが、現地は瓦礫が減っただけで復興しているわけではない。

佐々木氏は多くを語らなかったが、思い出ある自宅が完全に流失した被災者で、仮設住居者である氏(ら)の苦悩は測り知れない。自宅から数十m離れた地点で見つかったという写真数点だけを前にして、その時、氏は何を思ったろう。なお、氏は震災の数年前、大垣市に水環境の件で来市され、市民と交流されている。

震災のことは、新聞テレビやネットで、誰でもリアリティのない知識としては知っている。巷間「絆」と言っても、実際の我々は気の毒だなと思いつつ、せいぜい寄付する程度で、日常生活におわれているのが実状であろう。それを不可とは思わない。しかし、「絆」を口にする以上、また同じ国土に住む者として、地震で揺れただけの当地域で被災者の声を聞くという行為だけでも、この震災が個々人にとってリアルなものとなる契機になっただろう。

▲佐々木 健 氏
(岩手県大槌町役場生涯学習課長・図書館長)

消えゆく記憶から
―繋がってできる力を信じて―

樋下田 邦子　経済学部准教授

記憶とは、「過去に体験したことや覚えたことを、忘れずに心にとめておくこと」を意味するが、震災の記憶が消えていくような気がする。そこで、消えゆく記憶のメッセージを聴き「消えない記憶」にするために何ができるかを考えてみた。

2011年3月11日、津波に呑まれて消えていく町と東北人の我慢強く慎ましい避難所での生活は、日本だけでなく世界の人々の記憶となった。そして、多くの人は、じっとしていることができず「様々なボランティア」のかたちで支援した。私自身もそのひとりで、岩手県内の被災地へ4回行く機会があった。学内では、募金活動、100円募金、大槌町に図書を送ろうプロジェクトや被災地に出向いた学生が中心になって「学内における防災意識向上活動」などを進めてきた。

今、被災地に行けば、住居跡地に草が生い茂り、人影がない海岸通りで写真撮影する観光客に遭遇する。そして、仮設住宅で生活する人々の実態は一向に見えない。東日本大震災の被災者が入居する岩手、宮城、福島3県の仮設住宅で、誰にもみとられずに亡くなる「孤独死」した人が、震災から1年が過ぎた今年3月11日以降、少なくとも11人(5月末)に上っている。3月10日までは22人で、震災直後の1年間と比べると、2倍以上のペースになっている。阪神大震災(95年)の際も、孤独死は震災から2年目が最も多くなっている。

このようなニュースを目にして、私たちは何ができ、何をすべきなのだろうか。避難所から仮設住宅に移り、これからの生活を考えた時、家族や友人を失った自分と向き合うことになる。余力が残っていない高齢者は、張り詰めていた糸が切れてしまうだろう。

そこで、次の二つを提案してみる。一つは、学生と共にある一定期間(数週間以上)被災地に近い場所に宿泊し、大槌町地域包括支援センターが進める「地域ネットワーク再構築」の手伝いとして、仮設住宅に住む高齢者の声をしっかり聴き、よそ者だから見える人や自然、文化が持つ力、強みを地域の方と情報を共有し、「人と人とが繋がって出来る力」で地域づくりができるように支援をすることである。ひとりの孤独死も見逃さない地域共同体の構築である。

二つ目は、被災地で活動した学生が中心になって、大学が災害予防拠点としての体制のあり方や地域ネットワークづくりを進めることである。消えゆく記憶は、「常日頃から顔の見える付き合いと網の目のようなネットワークづくり＝地域共同体の構築」をすることで「決して消えない記憶」になるのではないか。なぜなら、被災された人々からのメッセージなのであるから。(地域福祉方法論研究者としての視点から)

まちづくり夢・未来会議

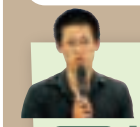
大垣市長との懇談

「まちづくり夢・未来会議」に参加しました。

参加学生のコメント

7月9日(月)、大垣市多目的交流イベントハウスにおいて、大垣市が、『第五次総合計画・後期基本計画』を策定するにあたり、次代を担う世代の意見や提案を幅広く取り入れた計画作りを行うため、市長と大学生との懇談会を開催し、本学学生9名と大垣女子短期大学の学生7名が参加しました。また、同懇談会には中学生・高校生部門もあり、そこでは本学学生2名が進行役を務めました。

大学生部門

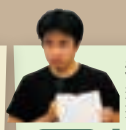


西野 靖浩さん　進行役
経済学科4年
加茂高校出身

テーマ「市民協働・市民参画」
市民が地域の良さを再発見できる体験講座の充実を図っては。

北川 久皓さん
臨床福祉コミュニティ学科3年
近江兄弟社高校出身

テーマ「子育てしやすい環境づくり」
中心市街地を拠点に親子が集える場づくりを展開してはどうだろうか。



森山 貴幸さん
経済学科4年
華陽フロンティア高校出身

テーマ「安心安全のまちづくり」
ショッピングセンター、地域の防犯ボランティア団体、行政が連携して地域一体となって軽犯罪抑止を進めるとよいと考える。

佐々木 翼さん
臨床福祉コミュニティ学科3年
大垣工業高校出身

テーマ「大垣市民が住みたいまち、戻ってきたいまち」
人間関係の中で多くの人に大垣を好きになってもらいたい。

林 美穂子さん
情報メディア学科3年
恵那農業高校出身

テーマ「安心安全な食の確保と提供（場所や人材の側面から）」
人が集まる場としての産直市場を中心市街地に整備してみてはどうだろうか。

越本 裕貴さん
経済学科3年
富山東高校出身

テーマ「観光まちづくり」
「住んでよし訪れてよし」を実現するために“観光交流”の充実を図ってはどうか。

飯山 拓磨さん
経済学科4年
高岡商業高校出身

テーマ「若者の雇用促進に向けて」
学生のころから現場での体験を通じて“仕事と地域”を考える機会をつくるとよいのではないだろうか。

林 悠介さん
経済学科3年
岐阜農林高校出身

テーマ「イベントによるにぎわいづくり」
大学祭と商店街とのイベントによる連携など。

山口 信さん
経済学科3年
粉河高校出身

テーマ「国際交流・多文化共生の実現」
多文化交流の拠点を中心市街地に整備してはどうだろうか。

高校生部門進行役

林　悠介さん　（経済学科3年　岐阜農林高校出身）

会議に参加した高校生たちにはしっかり者が多い印象を受けました。生徒たちは会議が始まる前はリラックスしていた様子でしたが、市長さんが入室時にはみな“ピシッ”とした空気になっていました。緊張している様子もありましたが終始真剣な姿勢で会議に臨めていました。

発表ではそれぞれの思いや、意見を市長に提案していました。大垣のことをよく調べられており、高校生目線での発言が多くてよかったと思います。中にはフリートークで積極的に意見を発言する生徒もおり、大垣への愛着を感じました。特に印象的だったのは交通に関する意見が多かったことでした。私は車で大学へ通学している為、自転車や徒歩で大垣にいることはありません。自転車利用者や歩行者にとって大垣は通学しにくいという意見には興味を持ちました。今回の会議で学んだことを今後のまちづくり活動に活かしていきたいと思います。

中学生部門進行役

越本　裕貴さん　（経済学科3年　富山東高校出身）

中学生の部は、市内全11校の代表が「大垣市の良いところ、好きなところ」と「大垣市をどんなまちにしたいか」について発表し、それぞれの発表に対して市長さんがコメントするという形式で行われました。中学生の挙げる大垣市の「良いところ、好きなところ」としては「水がきれい」「歴史や文化を大切にしている」「医療や子育て支援が充実している」という意見が多かったです。また今後「どんなまちにしたいか」という提案の中で印象深かったのは「都会に出て行った人が大垣に戻ってきたいと思うようなふるさとにする」という意見でした。

私は全体を通して中学生たちが「自分たちの地域について一生懸命考えてくれた」という事実がとても嬉しく感じました。まちづくりをしていく上で自分の住んでいる地域ほどその良さに気づくことは案外難しいです。なぜなら自分にとってその環境はあたり前すぎるからです。しかし、気づきにくいだけでその地域の良さを一番知っているのが、住民の私たちだと思います。中学生のみんなにはこの日のことを忘れず、これからも大垣のまちづくりに目を向けてほしいと思いました。

岐阜経済大学
国体出場選手紹介

輝け！アスリートたち

47年ぶりに岐阜県で行われる国体に本学の学生4名が選手として出場することになりました。

その4名の選手を紹介するとともに、国体に向けての抱負を聞きました。

国体でどんな結果を出してくれるのか、期待が高まります。みんなで応援しましょう!

国体出場に向けての抱負

ボート・成年男子ダブルスカル

真下 晃祐さん
スポーツ経営学科3年
海洋高校出身

6月に行われた国体の京都府予選に通過し、本大会に、ダブルスカルで出場することが決定しました。私は国体に出場するのは、2回目で、もう一度高いレベルのレースができると思うとワクワクします。目標は決勝レースに出ること。日々の練習に励み、国体のレースを思いっきり楽しみたいと思います。また、岐阜経済大学で培った練習量と精神を十二分に発揮し、大学の名前も、ぎふ清流国体で広めたいと思います。

成年男子バレーボール

米村 和也さん
スポーツ経営学科4年
岐南工業高校出身

私は、岐阜清流国体の成年男子バレーボールチームで活動しています。今年は地元開催のため、たくさんの方々に応援していただき、期待されていることがとても励みになっています。この応援を背に優勝を目指して頑張ろうと思います。これから国体までの1カ月半は追い込みの時期なので遠征などとても大変なシーズンですが、目標のために頑張ります。そして本大会では、岐阜県の代表、岐阜経済大学の代表として精一杯全力でプレーしたいです。また、自分が国体に出場できるのは、大学の監督、コーチ、先生やチームの仲間、家族、たくさんの方々のおかげなのでその感謝の気持ちを忘れず、恩返しができるようにしたいです。岐阜の選抜チームが総合優勝するために頑張るので応援よろしくお願いします。

成年男子バレーボール試合日程・場所　10月5日(金)～10月8日(月)　安八町総合体育館

ボート・成年男子舵手つきフォア

齋藤 涼平さん
経済学科3年
阿賀黎明高校出身

北信越ブロックの代表権を獲得し新潟の成年男子舵手付きフォアで出場します。岐阜国体に出場できるなんて夢にも思わなかったのでとてもうれしいです。私は新潟代表ですが所属は岐阜なので二番目の地元開催みたいなものです。会場は川辺ということで漕ぎなれたコースなので不安はありません。漕ぎの面では、多少不安はありますが、次の合宿までに一つでも多く不安要素を少なくしていき、ぎふ清流国体では、最高のパフォーマンスを出したいと思います。

ボート・成年女子シングルスカル

新里 杏菜さん
情報メディア学科2年
コザ高校出身

九州ブロックに沖縄代表としてシングルスカルで出場し、初めて国体の出場権を得ることができて、とても嬉しいです。地元沖縄でのレースで、成長した姿をみせることができたので、岐阜でも頑張っている姿をみせられるように練習を積んで頑張りたいと思います。ブロック大会では優勝を目指していましたが、2位という結果になり、とても悔しさが残っています。岐阜国体では力を出し切り、悔いのないレースをして上位を目指して頑張りたいと思います。

ボート試合日程・場所　10月5日(金)～10月8日(月)　岐阜県川辺漕艇場

陸上競技部
TRACK AND FIELD

第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会 入賞4種目

●男子400m　3位　〈記 録〉47秒62
東　魅 輝　（スポーツ経営学科1年　伊勢工業高校出身）

●男子4×400mR　3位　〈記 録〉3分10秒74
東　魅 輝　（再掲）
田中 翔也　（スポーツ経営学科3年　飾磨工業高校出身）
髙橋 拓也　（スポーツ経営学科2年　岐南工業高校出身）
小牟礼 尚也　（スポーツ経営学科4年　飾磨工業高校出身）

●円盤投　4位　〈記 録〉44m68
山田 晃広　（経済学科2年　市立岐阜商業高校出身）

●4×100mR　5位　〈記 録〉40秒49
大和 正作　（経済学科3年　新川高校出身）
増田　貴　（スポーツ経営学科2年　島田樟誠高校出身）
東　魅 輝　（再掲）
加藤 慎也　（スポーツ経営学科1年　桑名工業高校出身）

2012年7月6日(金)～8日(日)秩父宮賜杯第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会が京都市西京極総合運動公園陸上競技場にて開催されました。

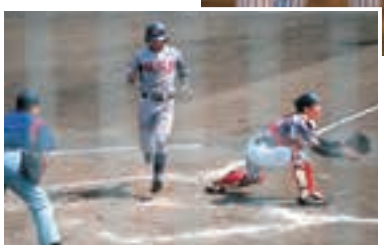
本学陸上競技部は、左記のとおり男子400m3位、4×400mリレー3位、円盤投4位、4×100mリレー5位入賞の好成績を残しました。

ロンドン五輪代表選手が4名出場するハイレベルな大会となり、9月に行われる全日本インカレに向けての前哨戦として、良い弾みになりました。

硬式野球部
BASE BALL

神宮へあと一歩!!

●5／26代表決定戦
岐阜経済大学　○　2−0　日本大学国際関係部
岐阜経済大学　●　2−11　三重中京大学
●5／27代表決定戦（再戦）
岐阜経済大学　○　3−0　日本大学国際関係部
岐阜経済大学　●　1−2　三重中京大学
●5／30代表決定戦（再々戦）
岐阜経済大学　○　6−4　日本大学国際関係部
岐阜経済大学　●　2−5　三重中京大学



2012年度岐阜学生野球春季リーグ戦で優勝しました。1999年に岐阜学生野球リーグが発足して以来、初の優勝になります。

この結果、全日本大学野球選手権大会の東海地区代表決定戦に進出し5月26日に静岡・三重県の代表と対戦しました。しかし、三大学が1勝1敗となり翌27日に再戦。この日も決着がつかず30日に再々戦となりました。

結果、1勝で並んだ三重県代表の三重中京大学との決定戦に残念ながら敗れ、神宮へはあと一歩及ばず準優勝に終わりました。

ご声援まことにありがとうございました。

部員一同、気持ちも新たに再度チャレンジしてまいりますので今後もご支援よろしくお願い致します。

サッカー部
SOCCER

悔しさをバネに 目標は岐阜県代表!

主将　粟根　大喜さん
（スポーツ経営学科4年　如水館高校出身）

7月8日(日)に行われた、2012総理大臣全日本大学サッカートーナメントではご声援ありがとうございました。試合中にも声が聞こえとても力になりました。初戦突破の目標は果たせませんでしたが、全国大会常連の高知大学から得点を奪ったことに手ごたえを感じました。

これからはストロングポイントを伸ばし、一つずつ自分たちの課題を克服していきます。

8月末には、天皇杯全日本サッカー選手権大会の岐阜県代表を争う試合があり、9月にはすぐにリーグ戦が始まります。天皇杯では今年こそ岐阜県代表になるために、リーグ戦ではベスト5を目標に練習から集中し、チーム一丸となって頑張ります。

厳しい就職環境でも、続々内々定

4年次生は、3年次生の秋より就職準備を始め、5月より内々定が出始めました。今年度の就職活動の特徴は、就職活動期間の短縮です。例年の10月の企業説明会開始が、12月になり2ヵ月遅れました。このことにより、企業説明会の重複等、企業情報の収集および企業研究に充分な時間が確保できなくなりました。業界・企業研究不足で活動した学生諸君は、苦戦を強いられています。企業の採用基準は依然厳しいですが、第1志望の業界に固執せず、柔軟かつ現実的な就職活動をしてください。企業の採用活動は長期化しています。「最後まで諦めない」「行動する」この2点をアドバイスします。就職活動、進路について悩みを抱えている学生諸君は、キャリア支援課へ相談ください。

内々定者報告

大垣信用金庫

棚橋 正光さん　（経済学科4年　大垣西高校出身）

私の就活はインターンシップから始まりました。金融機関への就職を希望していたので、地方銀行・証券会社のインターンシップに参加しました。

金融機関中心で選考に参加したので、私にとって4・5月が就活の山場となりました。12・1月は合同説明会やエントリー、2・3月は単独説明会、選考という日程で進み、同時に学力検査の対策もその都度行いました。

私は、面接が一番の勝負所だと考えていたので、キャリア支援課の方や外部就職コンサルティングの講師によるセミナーを活用して早期から対策を始めました。面接は、企業の方と直接向き合えるので、面接こそが自分を売り込む最大のチャンスだと思います。

また、インターンシップがきっかけになり現在も日経新聞を読み続けています。最初は理解することが難しいですが、面接の際に話す材料にもなりますし、学力試験や面接でニュースについて直接問う企業もあり、とても役立ちました。

就活中は周りの動きが気になり、焦ることがあります。もちろん、説明会や選考に参加し動き回ることも大切ですが、目標に向かってじっと力を蓄える時間も必要です。自分のこの先40年間を決める大切な選択だからこそ、妥協しないで、自分の目標を実現してほしいと思います。

株式会社杏林堂薬局

鳥居 桃子さん　（スポーツ経営学科4年　東海大学付属翔洋高校出身）

私の就職活動が本格的に始まったのは12月末でした。最初は「サービス業」というざっくりとしたくくりで業界を決めて「とりあえずエントリーしておこう」「みんな説明会に行っているから行こうかな」という考えで、中身のない就職活動をしていました。しかし、いざスーツを着て合同説明会へ行くと周囲の空気に圧倒されました。真剣なまなざしで話を聞き、しっかりとメモを取る学生の姿を間近で見たときに、私のやる気スイッチが入りました。そこからは、自分のやりたい仕事をよく考え業種を絞っていき、一つひとつの企業へ全力で取り組みました。何度も説明会へ参加し、面接ごとにお礼の連絡を入れるなど積極的に行動していきました。また、エントリーシート・履歴書では何度もキャリア支援課の先生方や先輩に手直しをしてもらい、書類の送り方から面接の対応まで本当に親身になってご指導していただきました。その結果いくつかの企業様から内々定をいただくことが出来ました。部活動との両立は大変でしたが、友人や先生、周りの方々のおかげで充実した就職活動をすることが出来ました。

就職活動を通して大切だと感じたことは、何事も前向きに挑戦していくことと、自分の事をよく分析し、どれだけ相手に上手くアピール出来るかだと思います。行動しなければ何も変わりません。どんな事にもチャレンジすることで自分のスキルをあげていきましょう。

インターンシップを実施

3年次生は、8月から9月にかけて、インターンシップ生として企業の就業体験をします。今年度のインターンシップは、下記の企業・自治体にお世話になります。

2012年度インターンシップ実習先一覧

八幡平市役所
SMBC日興証券(株)
(株)大垣共立銀行
大垣信用金庫
(株)大光(アミカ事業本部)
岐阜エフエム放送(株)
(株)岐阜放送
(株)コパン
(株)ジャパンテレビ中京
(株)十六銀行
神鋼造機(株)
スポーツドームエアーズ
(株)ダーワイコミュニケーション
高山信用金庫
(株)中部電力
(株)TYK
東濃信用金庫
(株)日本旅行
(株)ハイウッドコーポレーション
(株)ヒマラヤ
(株)文溪堂
ミズノ(株)
ヨツハシ(株)
(株)琉球銀行

2012年度(2013年3月卒業予定者)主な内々定先一覧

建設	**住友林業㈱**	セキスイハイム中部㈱	
製造業	揖斐川工業㈱	㈱エヌビーシー	ＭＴＫ㈱
	サンケミカル㈱	**サンメッセ㈱**	三甲㈱
	東海紙器㈱	㈱パールマネキン	**日本特殊陶業㈱**
	㈱松永製作所	**三国コカ・コーラボトリング㈱**	ラブリークイーン㈱
情報通信業	**旭情報サービス㈱**	共立コンピューターサービス㈱	
運輸郵便業	**西濃運輸㈱**	**福山通運㈱**	郵便事業㈱
卸売	ヰセキ東海㈱	イワタニ東海㈱	デュプロ販売㈱
	中北薬品㈱	㈱本久ホールディングス	
小売	ＡＯＩホールディングス㈱	㈱カインズ	岐阜スズキ販売㈱
	㈱杏林堂薬局	**ゲンキー㈱**	㈱サークルＫサンクス
	東海マツダ販売㈱	トヨタカローラ岐阜㈱	**㈱バロー**
	㈱フィールコーポレーション	㈱ヤナセ	ユタカファーマシー㈱
金融保険業	**野村證券㈱**	㈱福邦銀行	大垣信用金庫
	滋賀中央信用金庫	西濃信用金庫	西美濃農業協同組合
不動産	**住友不動産販売㈱**		
サービス業	㈱コパン	㈱マイナビ	**㈱ラウンドワン**

※太字は上場企業

現場で学んだことを励みに ― 教育実習報告 ―

子ども達の成長が私の喜びに

スポーツ経営学科　4年
（名古屋高校出身）
川邊　昌哉

私は、母校である学校法人名古屋学院、名古屋中学校・高等学校にて5月28日から6月16日の3週間お世話になりました。私が通っていた10数年前とは違い、校舎や体育館、グラウンドなどの施設がすべて改修され、公立中学校・高等学校にはない施設の充実さに驚きました。

私立の中高一貫教育ということもあり、高校1年生の体育13時間、高校1年生の保健2時間、中学校3年生の柔道3時間、クラスHR1時間を担当し、高校生だけではなく、中学生の授業も担当させていただき、また、実習2日目から一人で授業をし、多くの経験を積ませていただきました。

保健の授業では、新聞の切り抜きを印刷したものや、喫煙の害についての実験映像を見せたり、アルコールパッチテストを実施しました。保健は、センター試験などでは出ませんが、将来知っていて絶対に損しない知識だと思います。生徒の参加型授業をすることで、インパクトを残し、将来に役立てる記憶に残る授業を目指しました。

体育、保健の授業を通して、先生方の評価は、社会を経験しているぶん話がうまかった、営業マンみたいだったと評価していただきました。一方で、50分の授業で自分が何を一番に伝えたいかをもっと出したほうが良いともご指摘をいただきました。教えること、伝えることの難しさを改めて感じさせられました。

この教育実習を通して、子ども達と関わること、子どもの成長を間近でみられることが、私の喜びであることを再認識しました。今後は、公立、私立の採用試験の勉強に励んでいきたいと思います。

生徒をよく見ることが重要と気づく

情報メディア学科　4年
（大津商業高校出身）
香川　涼

私は約2週間、母校である大津商業高等学校に教育実習にいかせていただきました。そこでは1年生の情報処理を担当しました。2週間という短い期間ではありましたが、多くのことを学びました。その中で一番重要だと感じたのは生徒をよく見ることです。生徒がどこで躓いているのか、様子をみることで感じ取ることが出来ました。そのことによって、どうすれば生徒に伝わるのかを考え、工夫するきっかけとなりました。わかりやすい授業を行うために生徒たちを見ることが大切だと感じました。自分の満足のいく授業が出来たわけではないのですが、生徒達からは「わかりやすかった。」や「できた。」という声を聞くことができて、頑張ってきて本当によかったと思いました。

教育実習期間中は慣れないことが多く、環境が変わっていたことからしんどいと思うこともたくさんありました。ですが、終了時にはもう少しだけ実習をしていたい、もっと勉強したいと思うようになっていました。また自分が本当にやりたいと思っていたこと、自分の想いの中心にあったことに気がつくことができました。教育実習中の2週間は私にとって様々なことに気がつくことのできた2週間となりました。

生徒たちの言葉に励まされ

臨床福祉コミュニティ学科　4年
（益田清風高校出身）
林　圭

私は5月28日～6月8日までの2週間、母校である岐阜県立益田清風高校に教育実習にいかせていただきました。私の実習科目は「福祉」で、2週間の間に授業見学を23時間、模擬授業を8時間、その他にも教材研究を行いました。岐阜県立益田清風高校は、普通科、商業科、総合学科から成り立っています。私は総合学科健康福祉系列3年H組のHR担当になりました。

私は、実習が始まる前から不安と緊張感に苛まれていました。私のような人間が仮にも教師として教壇に立ち、生徒に教えることができるのかと思っていました。また、実習中も日々目に見えないプレッシャーに押し潰されそうになりました。しかし、私が右往左往しているときに生徒から「先生の授業分かりやすくて楽しかったよ」という言葉に救われたのです。その言葉によって私は少しずつ自信をつけ、次の授業も生徒が少しでも楽しいと思える授業がしたいと感じました。ですが、楽しい授業を作るためには教材研究を徹底しなければなりません。私も授業を行うために教材研究を行いましたが、筋縄ではいきませんでした。現職の先生方が日々教材研究を重ね、学び続けている姿勢には脱帽してしまいました。

生徒には拙い、分かりにくい授業をして迷惑をかけてしまった事を申し訳なく思っています。また、授業などでは生徒の協力なくして行うことは出来ませんでした。生徒達に助けられながらの2週間だったと思います。私が2週間を通して生徒達に何か与える事が出来たかと聞かれると分かりません。ですが、教師の大変さ、授業を行う難しさ、生徒とのコミュニケーションの大切さ等、私が学んだ事は数えきれないほどあります。この2週間はとても大変でしたが、同時に楽しく過ごすことが出来ました。生徒たちと交わした言葉が昨日のことのように蘇ってきます。今回の教育実習は私にとって忘れられない貴重な体験であり、大きな財産になると思います。

研究室だより 特別版

本年度、経済学部と経営学部に1名ずつ迎えた新任教員と、昨年度、国内留学や短期国外調査研究を行った教員3名による報告会がありました。学ぶことの意義を含め、専門分野のことをできるだけわかりやすく、また、学生のみなさんへの留学の勧めなどを語っていただきました。

昭和恐慌期～戦時体制期における農村社会事業

経済学部
宇佐見 正史 教授
国内留学

国内留学では、「昭和恐慌期～戦時体制期における農村社会事業」を研究課題とした。この研究は、愛知県の農山村地域（旧額田郡形埜村・下山村）を対象として、昭和恐慌期から戦時体制期に実施された農村社会事業の実態を考察することにより、農村住民の生存に関わる政策が地域レベルでどのように展開されたのかという視点から、日本の戦時体制の特質を明らかにすることを課題とした。ここにいう農村社会事業とは、行政村単位に設立された隣保事業組合と国民健康保険組合という2つの組織を事業主体とした、①保健・衛生、②医療、③母性・乳幼児保護、の3つの領域を中心とする事業を含意している。この研究では、形埜村・下山村の役場文書を基本資料として、国保組合・隣保事業組合の収支決算書や事業報告書などを使い、農村社会事業の展開を3つの時期に区分して実態分析を進めた。

地方分権と経済成長

経済学部
焼田 紗 講師
新任教員

地方分権はわが国においても重要な関心の一つであり、平成21年には地域主権戦略会議が設置され現在も議論が行われています。これまでの研究で私は、地方分権を進めることによって、一国の経済成長を促すことができるのかを経済学の理論モデルを用いて考察してきました。この分野の研究では、1990年代後半から各国のデータを用いた研究が進められてきましたが、最近の研究では、地方分権の度合いと経済成長率の関係を図に表したとき、逆U字の関係があり、経済成長を高めることができる地方分権の度合いが存在していることが示されています。さらには、経済の発展段階（先進国、新興国など）によっても地方分権の効果が異なるという結果も得られています。今後の私の研究では、なぜ経済の発展段階によって地方分権の効果に違いが生じるのかを明らかにしていきたいと考えています。

留学の勧め

経営学部
中西 靖忠 教授
短期国外調査研究

最近、日本人学生がアメリカをはじめ外国の大学へ出かけようとしない話をよく耳にする。日本の大学で学んでいれば、わざわざ外国の大学に行く必要はないというほどに、日本の学問が進んでいればいいのだが・・・

随分昔、フランスの大学に1年近く滞在したとき、そこで何回か講演をしたが、そのたびに若い大学院生からよく質問を受けた。彼らは実によく勉強する。授業料はほとんどいらないからアルバイトをする必要もなく一日の大半を勉強に費やす。大学はいろいろな資格を取るために勉強するところだという考えを持っている。色々な資格を色々な大学で取得するので大学への帰属意識も少ない。運動クラブもないので先輩、後輩という意識もない。これらはフランス革命以来の合理主義の産物なのだろうか。いずれにしても、現代日本のぬるま湯の中で、人生で最も輝いている4年間を過ごすのは余りにもったいない。お隣の中国や韓国でも学生たちはどんどん留学して学問を吸収しようとしている。追い越されてから歯ぎしりをするより、今からでも自分を鍛えるために旅立つべきだと思う。

スポーツ競技力向上のための測定の活用

経営学部
篠田 知之 講師
新任教員

スポーツの競技力を向上させるためには、自分の長所を知りそれを伸ばすこと、または短所となる部分を克服することが必要となります。長所や短所を把握するためには、体力測定などのように自分の能力を数値化し、客観的に評価することが大事です。しかし、実際のスポーツの現場では、測定によるデータを活用して競技力の向上を図っているチームが、まだまだとても少ないことを感じます。測定が現場に取り入れられない、または一度測定を行っても継続されない理由としては、測定自体に時間を取られてしまうため時間がもったいない、準備が面倒である、データの有効な活用方法を知らない、などが考えられます。そこで、私は、どのような測定方法ならば現場で取り入れやすいか、継続しやすいか、また、出てきたデータをどのように活用すれば競技力向上に結び付くか、などの観点から、体力測定を活用したトレーニングシステムを開発していきたいと考えています。

イタリアの全国学力調査

経営学部
徳永 俊太 講師
短期国外調査研究

私はイタリアの歴史教育を専門として研究をしていますが、合わせてイタリアの全国学力調査の研究もしています。イタリアの全国学力調査は、国際学力調査PISA調査の影響を受けて始められた点、実施に前後して学習指導要領が改訂された点、悉皆調査で行われた点、国語（イタリア語）と数学に絞って行われている点などが日本の学力・学習状況調査に似ています。イタリアの数学の問題を見てみると、日本のものと同じような考えから作成されたことが分かります。現在イタリアでは、テストの結果からイタリア語を母語としない生徒の学力水準に注目が集まり、水準を上げようとする試みがなされています。日本でも同じような問題が起こりつつあります。イタリアの取り組みは、日本の取り組みにも様々な示唆を与えるでしょう。

大学連携事業「若き開発・研究者たちの挑戦」を開催しました。

2012年7月13日ソフトピアジャパン2Fドリームコアにて、実践的なシステムの開発と地域におけるICT化の推進活動をしている岐阜経済大学情報技術研究所ソフトピア共同研究室の学生4名と、ICTを活用したプロダクトに挑戦している情報科学芸術大学院大学(IAMAS)f領域の大学院生3名が左表の研究発表を行い、意見交換をしました。この大学連携事業には、一般参加者、学生及び教職員を含め約60名が参加しました。

岐阜経済大学（ソフトピア共同研究室メンバー）

1	concreate5を活用した初心者向けウェブサイト構築運営の取り組み 栗田 寛之さん（情報メディア学科2年 大垣商業高校出身）
2	Androidアプリ「ヘイ!タクシー!」の開発 佐々木 広志さん（情報メディア学科2年 復旦大学附属高校出身）
3	スマートフォンアプリ「Local Area Twitter Client」の開発 武藤 武さん（情報メディア学科2年 郡上北高校出身）
4	音声対話システムによる呼び掛けタイプの高齢者見守りサービス 百々 翔馬さん（情報メディア学科4年 伊香高校出身）

情報科学芸術大学院大学（f領域メンバー）

1	プロトタイプ制作の技術理解を支援するためのツール・ワークショップ開発に関する研究
2	ディスプレイ上における配色法の研究
3	静電容量型タッチパネルディスプレイ上にのせる編集可能なオブジェクトの提案

公開授業を実施 ―FD教育の質的向上に向けた取り組み―

7月3日(火)2限に、FD委員会によるFD活動の一環として、徳永俊太講師担当の教職科目「教育課程論」において公開授業が実施されました。7月10日(火)にはこれを受けた意見交換会が行われ、授業改善に資する試みとなりました。

公開授業とそれに伴う授業検討会は、日本の学校で伝統的に行われてきた教員研修の手法です。その目的は、各教員の力量を向上させること、教員同士の協同性を生み出すこと、そしてなにより教員同士で目指すべき子ども像について議論し合うことにあります。

近年、大学でも公開授業を組み入れた教員研修が求められるようになりました。今回は、教職課程の授業を様々な方に見て頂きました。岐阜経済大学でどのような教員を養成していくのかを多様な角度から議論するきっかけになったのではないかと思います。

異文化体験事業 ―渡航費用の半額が補助―

本学には学生が、海外の異文化に触れることにより、国際的な視野を身につけ、問題意識や学習意欲を喚起することを目的とする異文化体験事業があります。

本年度は文化・歴史・自然の宝庫カンボジアを訪ねます。詳しい内容をコーディネーターの竹内治彦教授に伺いました。なお、募集は夏休み以降に始まります！

本年度の異文化体験事業は、カンボジアのシェムリアップを視察します。もちろん、アンコールの遺跡群を見学する機会もあります。文句なく美しく感動的で、修復の様子も視察します。他方、現地での様々な支援活動を体験してもらう企画に重点を置きました。例えば、孤児院に日本の漫画を翻訳したものを寄付する取り組みに参加します。識字率が低いので、漫画は学習道具として注目されています。また、女性たちに研修を行い、手工業的な小さなビジネスで現金収入を得る道を開く女性の自立支援プロジェクトも視察します。これらの体験を通して、学ぶことの意義を再確認できたらと考えています。来年2月11日から15日で、バレンタイン・デーもありますが、是非、ご参加ください。

「湧水魚」ハリヨが国の天然記念物に ―ハリヨを通じての交流など―

絶滅危惧種の湧水魚ハリヨ、本学の中庭のハリヨ池にも棲むハリヨが『国の天然記念物』指定に向けて答申されました。また、地元の岐阜県立大垣東高等学校理数科の生徒のみなさんのハリヨの生態調査活動が、今年1月環境省から水・土壌環境保全活動功労者として表彰されました。新聞紙上等で紹介されましたとおり、その活動をトゲウオ科研究の第一人者である本学の森誠一教授が数年前から指導をしながら、生徒のみなさんとの交流を続けています。これらのことについて、同教授に聞きました。

西美濃のハリヨ保全

本学の中庭の池には、大垣産のハリヨが生息しています。かつて、私のゼミ生と一緒に、今ではほとんど絶滅してしまった小川で数十個体を捕獲して導入したものです。現在、この池のハリヨは繁殖を繰り返して、健全な形で定着しています。

本種は、元来、北方系の魚で、体長5㎝ほどの小さなトゲウオ科の仲間です。背中などにトゲを全部で6本もち、鱗が板状になった鱗板が、体側の前半分に数枚ほど一列ならび、後半身は裸で個体ごとに異なった黒緑色の雲状模様があります。生態的な特徴として、夏でも水温十数℃の湧き水を中心に生息し、周年的な繁殖期をもつ珍しい魚です。また、オスがなわばりを形成し巣を作り、メスに産卵をさせて子育てをする興味深い行動習性をもっています。

ハリヨは、岐阜県西濃地方と滋賀県琵琶湖東部の一部の湧水域にしか天然分布しておらず、かつ減少の一途を辿っている絶滅危惧種の「湧水魚」です。県内海津市にある生息地域は、『国の天然記念物』指定に向けて、今年9月に文部科学大臣に答申されます。これには、地元の長年の保全への取り組みと、大垣東高校の数年にわたる活発な調査活動が重要な存在となっています。また、東高校の活動は今年、環境省の「環境保全活動功労者」を受賞し、全国的に大きく評価されています。私は、彼らの毎月の調査に参加して支援をしています。

今後、生息地全域が指定となるよう各地域で、いっそうの保全活動が展開されることが期待されます。それは同時に、地域の水環境を守ることと直結して、特性ある「まちづくり」の基軸の一つとなるに違いないでしょう。

近著紹介

適応放散の生態学

ドルフ・シュルーター著
森 誠一 教授 共訳
京都大学学術出版会
2012年7月

本書は、多様化の仕組み、すなわち進化の正体に迫る21世紀の「種の起源」(ダーウィン著)といえ、今後、古典ともなろう。進化生物学の第一人者が、自身による豊富な研究事例を交えながら、「適応放散」を軸として進化生態学を体系的に解説した原著を、本学の森誠一教授と北野潤氏(国立遺伝学研究所)が翻訳した書である。

キャンパス彩々 Campus Saisai

INFORMATION from GKU 2010

学生によるクリーンアップボランティアを行っています。

本学では、今年度からの校内全面禁煙活動が始まりました。それに加え学生によるクリーンアップボランティアを行い、学内美化を徹底しています。学生たちはお昼休みを利用し、学内のゴミを拾い、ゴミの正しい分別を呼び掛けています。このボランティアに参加している渡辺元さん（経済学科2年　武生商業高校出身）は「大学が今年の4月から全面禁煙になりました。禁煙という看板の下に、たばこの吸い殻が落ちていたらどうでしょうか。そこで私たちは、大学をより美しくするため、そしてみんなが大学生活を快適に過ごすためにクリーンアップを実施することにしました。毎週月曜日の12時30分から学内を周り、喫煙者に注意を呼びかけるとともに、ゴミ拾いを行っています。体育会や文化会にも協力していただき、効果があったのではと思っています。これからも活動を続け、綺麗なキャンパスを目指していきたいです。」と語っていました。

宅地建物取引主任者試験対策講座を開講しました。

本学キャリア支援センターでは、本学学生または社会人を対象とする、日商簿記検定2級をはじめ、資格対策講座を例年開講しています。本年度は、在学生の就職対策の強化や、社会人の方の需要にも応えるため、新たに宅地建物主任者試験講座を開講しました。この講座の開講には、本学が産学連携協定を締結している株式会社大垣共立銀行の協力を得ており、協定内容にある人材の交流･養成の一環となるものです。

5月19日（土）本学において、第1回講座を実施しました。講師には、共立不動産調査株式会社の端元常真氏（不動産鑑定士）をお招きし、本学学生をはじめ約30名が聴講しました。端元講師は、講座のガイダンスとして宅地建物取引主任者試験が法律に関係する資格試験の入門的資格であること、例年の受験者数、合格率などについて紹介し、聴講者は熱心に耳を傾けていました。

サッカー部･陸上競技部　全国大会出場壮行会を開催しました。

6月6日(水)、本学講堂にてサッカー部（総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント）と陸上競技部（日本学生陸上競技個人選手権大会）の全国大会出場壮行会が行われました。

開会後、谷江幸雄学長が、「ボート部に続き、日本一をめざし、全日本で大いに活躍し岐阜経済大学の名を全国に発信してほしい。」と挨拶し、続いて土屋嶢理事長が、「今回の全国大会出場は、選手の皆さんや指導者の皆さんが日々積み上げてきたもので、本学にとって励みになり、強みにもなる。次は祝賀会を。」と激励しました。

サッカー部のキャプテン、粟根大喜さん(スポーツ経営学科4年　如水館高校出身)は「全国大会ではまずは初戦突破を目標に頑張ってきます。」陸上競技部副キャプテン、霜鳥広貴さん(スポーツ経営学科3年　長岡商業高校出身)は「今までやってきたことを自信に変えて決勝で勝負できるように頑張ります。」と熱く抱負を語りました。

最後に、学生会代表の浅野千夏さん(臨床福祉コミュニティ学科4年　大垣桜高校出身)が「皆さんの努力が報われる結果が今回のサッカー部と陸上競技部の快進撃となって現れました。今日まで培った実力を十分に発揮し素晴らしい大会となることを心より祈っています。」と激励の言葉を送り閉会としました。

「コーチング演習（陸上競技）」の授業で揖斐祐治客員教授が講師を務めました。

6月7日(木)、揖斐祐治客員教授が、ゲスト講師として「コーチング演習(陸上競技)」の授業を行いました。同授業は、経営学部スポーツ経営学科の科目で、岸順治准教授が担当し、主に陸上競技に関する科学的で効果的なトレーニング方法や技術について、コーチングのための理論的理解を深めることを目的として開講しています。

授業では、揖斐客員教授が、以前陸上競技部の監督として女子駅伝部を指導していた際に使用した、練習管理表や体重管理表、目標の設定を決めるターゲットシートなどを学生に見せながら、現場でのコーチングへの取り組み方や注意点、寮での生活指導や寮規則の作り方、選手の体調管理の仕方などを丁寧に解説。また選手に毎日練習日誌を書くように指示していた事を例に挙げ、「日誌を見れば選手の調子を把握できる。選手の日誌の書き方が丁寧であれば調子は上向きであることなど、心理面も把握ができる。」という説明に、学生達も熱心に聴き入っていました。

五月祭（学生スポーツ大会）が開催されました。

6月1日（金）2日（土）の2日間、学生相互の交流・親睦などを目的として、五月祭（学生のスポーツ大会）が体育館で開催され、約230名の学生が参加し、大会種目である「ドッヂビー」に汗を流しました。今年はゼミで衣装を揃えたり、事前練習会をチーム毎に行うなどして、チームの技術力・団結力が向上されました。

表彰式終了後は、食堂北テラスでバーベキュー大会を行い、参加者それぞれがお互いの健闘を讃え、チーム内だけでなく、チームを超えて親睦を深めていました。

4年連続優勝チームを輩出する大野ゼミが今年も優勝。大野ゼミに所属する原一樹君（スポーツ経営学科3年、塩尻志学館高校出身）は「目標である優勝ができました。ゼミ一丸となり楽しくできたことが一番良かったです。」と、喜びのコメント。五月祭実行委員長の高尾洋志君（スポーツ経営学科４年、八幡商業高校出身）は「毎年恒例の人気行事となりつつある五月祭。今年は約230名もの学生が参加してくれ、非常に盛り上がった2日間となりました。今年は体育会と文化会の本部役員が実行委員として五月祭を開催しました。学生達の"笑顔でピースをたくさん作ろう！"を目標に、事前準備に取り組みました。当日は、お揃いのTシャツを着ているチームや元気な声が飛び交う場面が見られ、本当に嬉しかったです。また、実行委員ではない学生が当日の手伝いをしてくれる場面もあり、経大生の温かい部分も見られ、本当に嬉しかったです。惜しくも参加できなかった学生のみなさん、こんな面白い出会いの広がる行事を逃したことを後悔してください！（笑）最後に…実行委員のみんな、本当にありがとうっ！」と喜びと感謝の気持ちを話しました。

岐阜経済大学に学生赤十字奉仕団結成

7月18日(水)、本学のボランティアラーニングセンターにおいて岐阜経済大学学生赤十字奉仕団発足式が行われ、団員26名が活動への意欲を高めました。

大学生による赤十字奉仕団としては、県内2団目。学生赤十字奉仕団とは、全国に約160団ある青年赤十字奉仕団の中のひとつで、主に学内で組織され、献血推進活動や福祉に関する活動、防災活動、HIV・エイズ予防啓発活動に取り組んでいます。

岐阜経済大学学生赤十字奉仕団委員長の木村良洋さん（経済学科1年 大垣東高校出身）は「今回の奉仕団発足式を期に、さらに大きなありがとうと笑顔の輪を広げていきたい。支援が必要な人たちの支えになるように頑張っていきたいです。」と意気込みを聞かせてくれました。また、樋下田邦子准教授は「学生にはいろいろな人と出会って自分の可能性を見出して欲しいです。」と激励の言葉を送りました。

(2)消費収支計算書

「消費収支計算書」は資金の移動を伴わないもの(現金の出入りの他に消費していくもの)として、減価償却額や退職給与引当金繰入額などを計上し、当該会計年度の消費収入及び消費支出の均衡状態を表したものです。学校法人の経営状況を示すもので企業会計の「損益計算書」に当たるものです。消費収支計算書については、収支科目の多くが資金収支計算書の収支科目と共通していますので、消費収支固有の内容について主なものを説明します。

①収入の部

消費収入の部では「学生生徒等納付金」から「雑収入」までを帰属収入といいます。帰属収入は学校法人の負債(返済義務のない収入)とならない収入のことです。従って資金収支計算書の収入から資金の動きだけを示す「前受金収入」、「その他の収入」、「資金収入調整勘定」等は除かれます。

[寄付金]

一般寄付金の他に団体、個人から寄贈された図書等612点、241万円、校友会創設40周年記念植樹及び教育研究用機器備品を現物寄付金として計上しました。

[基本金組入額合計]

教育研究の維持・充実に必要な資産(校地、校舎、機器備品、図書等)を継続的に保持するために、帰属収入から組入れた(控除した)金額です。平成23年度は、ネットワーク・サーバ更改、3・7号館トイレ改修、1号館空調改修、PAC学習室設置、図書購入額から建物、機器備品、図書の処分額を控除した結果、35万円の組入れとなりました。

②支出の部

消費支出の部では、施設の建設費や機器備品・図書等の資本的支出に充当する額(基本金組入額)を控除し計上します。従って資金収支計算書の支出科目から「施設関係支出」、「設備関係支出」、「その他の支出」等を除きますが、消費支出として「教育研究経費」及び「管理経費」には各々減価償却額を加算しています。減価償却額は建物、機器備品などの固定資産の当期償却額を計上しています。

[資産処分差額]

固定資産(建物、機器備品、図書等)の除却処分差額173万円を計上しました。

消費収支計算書 平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

科　目	平成23年度	平成22年度	前年度比
消費収入の部			
学生生徒等納付金	1,239,194	1,266,157	△ 26,963
手数料	22,273	24,912	△ 2,639
寄付金	14,562	15,051	△ 489
補助金	261,495	217,567	43,928
資産運用収入	106,355	101,687	4,668
資産売却差額	0	23,742	△ 23,742
事業収入	44,874	39,581	5,293
雑収入	46,567	120,579	△ 74,012
帰属収入合計	1,735,323	1,809,281	△ 73,958
基本金組入額合計	△ 357	△ 2,469	2,112
消費収入の部合計	1,734,965	1,806,811	△ 71,846
消費支出の部			
人件費	1,041,435	1,141,442	△ 100,007
教育研究経費	850,962	828,978	21,984
(内減価償却額)	203,851	211,324	△ 7,473
管理経費	226,267	202,888	23,379
(内減価償却額)	34,263	35,083	△ 820
資産処分差額	1,736	183,512	△ 181,776
消費支出の部合計	2,120,402	2,356,821	△ 236,419
当年度消費支出超過額	385,436	550,009	164,573
前年度繰越消費収入超過額	1,805,810	2,355,820	△ 550,010
翌年度繰越消費収入超過額	1,420,373	1,805,810	△ 385,436

(単位 千円)

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

[設備関係支出]

教育研究用図書、ネットワーク・サーバ機器の更新、PAC学習室設置に係る机等の購入が主な支出で4,833万円となりました。

[資産運用支出]

満期償還等を迎えた有価証券の買い替え4億2,310万円です。

資金収支計算書 平成23年4月1日～平成24年3月31日まで

科　目	平成23年度	平成22年度	前年度比
収入の部			
学生生徒等納付金収入	1,239,194	1,266,157	△ 26,963
手数料収入	22,273	24,912	△ 2,639
寄付金収入	11,720	13,813	△ 2,093
補助金収入	261,495	217,567	43,928
資産運用収入	106,355	101,687	4,668
資産売却収入	425,000	421,800	3,200
事業収入	44,874	39,581	5,293
雑収入	44,964	120,509	△ 75,545
前受金収入	224,274	268,470	△ 44,196
その他の収入	227,837	178,132	49,705
資金収入調整勘定	△ 338,328	△ 382,189	43,861
当年度収入の部小計	2,269,660	2,270,443	△ 783
前年度繰越支払資金	2,398,846	2,535,618	△ 136,772
収入の部合計	4,668,506	4,806,061	△ 137,555
支出の部			
人件費支出	1,082,221	1,159,582	△ 77,361
教育研究経費支出	647,004	617,443	29,561
管理経費支出	192,152	167,490	24,662
施設関係支出	52,117	0	52,117
設備関係支出	48,338	20,554	27,784
資産運用支出	423,102	426,213	△ 3,111
その他の支出	94,386	49,639	44,747
資金支出調整勘定	△ 39,569	△ 33,708	△ 5,861
当年度支出の部小計	2,499,753	2,407,215	92,538
次年度繰越支払資金	2,168,753	2,398,846	△ 230,093
支出の部合計	4,668,506	4,806,061	△ 137,555

(単位 千円)

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

(3)貸借対照表

「貸借対照表」は年度末3月31日における資産、負債及び基本金等の状況を表したものです。

資産の部の合計は、140億685万円となり、前年度末に比べて5億1,206万円減(3.6%減)、負債の部の合計は、8億8,878万円となり、前年度末に比べて1億2,698万円減(14.2%減)、基本金の部は、116億9,769万円となり、前年度末に比べて35万円の増加となりました。この結果、資産の総額から負債の総額を差し引いた「正味財産」は131億1,806万円となり、前年度比3億8,507万円(2.9%減)の減少となりました。

貸借対照表 平成24年3月31日

科　目	本年度末	前年度末	増　減
資産の部			
固定資産	11,767,857	11,996,008	△ 228,151
有形固定資産	6,168,478	6,304,732	△ 136,254
その他の固定資産	5,599,378	5,691,275	△ 91,897
流動資産	2,238,995	2,522,904	△ 283,909
資産の部合計	14,006,852	14,518,912	△ 512,060
負債の部			
固定負債	610,989	653,078	△ 42,089
流動負債	277,793	362,685	△ 84,892
負債の部合計	888,783	1,015,764	△ 126,981
基本金の部			
第1号基本金	11,495,695	11,495,337	358
第4号基本金	202,000	202,000	0
基本金の部合計	11,697,695	11,697,337	358
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,420,373	1,805,810	△ 385,437
消費収支差額の部合計	1,420,373	1,805,810	△ 385,437
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	14,006,852	14,518,912	△ 512,060

(単位 千円)

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

平成23年度決算報告

●事業の概要

本学は、地域に有為な人材を養成するという建学の精神を基本とした、中長期指針「岐阜経済大学50周年ビジョン」に基づき、戦略的課題実現のための「アクション・プラン2009－2012」の目標達成に向け、取組みました。

平成23年度における事業の概要は以下の通りです。

(1)アクション・プラン事業

アクション・プランは、7分野(魅力ある学部学科体制、学募広報、学生教育、学生支援、教員研究、地域連携、運営体制)から構成されています。

平成24年４月に公共政策学科を開設するにあたり、平成23年度は3つのプレイベント(シンポジウム、映画上映会、高校生作文コンクール)を実施しました。

また、就職においては、文部科学省選定事業「大学教育・学生支援推進事業　－就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実－」により構築した、卒業生や内定学生による後輩指導の好循環や学生一人ひとりの個別指導による就職支援によって、今春卒業生の就職率は93.7%となりました。

(2)主な教育事業

- 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(3年目)の実施(就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実)
- 教育の国際化事業(上海財経大学・江西師範大学交換留学生の受入、海外語学研修派遣)
- PAC支援室の発足(公務員対策、教職支援)
- ボランティア・ラーニングセンターの開設(教学的な体験型学習の支援)
- 初年次教育の拡充とゼミ教育、地域実践教育の充実(検定科目の必修化等)
- キャリア形成講義、就職支援事業(資格取得12講座、就職支援セミナー、インターンシップの実施)
- 奨学金事業(経済支援、資格取得・スポーツ優秀者等への奨学金給付)
- 強化、準強化指定クラブ助成事業(硬式野球部・陸上競技部・ボート部・サッカー部・男子バレーボール部・女子バレーボール部・女子ソフトボール部への活動助成費)

(3)研究・産官学連携活動

- 受託、共同研究事業(受託事業７件実施、うち１件はプロポーザル審査による採択)
- 産官学連携事業
  大学のまちなか共同研究室であるマイスター倶楽部は、９つのグループを編成し活動を行いました。その内の１つ「めぐりあいトラベルin大垣」は、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の「地域課題解決提案事業」に採択されました。また、ソフトピア共同研究室では、在宅支援システムの開発やスマートフォンアプリケーションの開発を行い、その研究成果は、情報処理学会から高く評価され、名古屋市等が主催する大学発ベンチャービジネスプラングランプリ発表会にて奨励賞を受賞しました。
- 講師派遣、共催事業(小中高等学校等への出前講座、公開講演会の実施、大垣市との「かがやきカレッジ」開催)

(4)キャンパス整備事業

- ネットワーク・サーバ更改
- 図書館システムのバージョンアップ
- ３・７号館トイレのバリアフリー化
- １号館空調改修

●財務の概要

資金収支計算書では、次年度への繰越支払資金は21億6,875万円となり、前年度より2億3,009万円減少しています。

消費収支計算書では、帰属収入合計額から基本金組入額と消費支出合計額を差し引いた単年度の消費収支差額は3億8, 543万円の支出超過となり、累積では翌年度への繰越消費収入超過額は14億2, 037万円となりました。

(1)資金収支計算書

「資金収支計算書」は、当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対応するすべての資金(現金の出入り)の動きを表したものです。資金収支の内容について、主な科目を説明します。

①収入の部

〔学生生徒等納付金収入〕

授業料、入学金、実習料、施設設備資金等の収入です。授業料納付学生数は1,310名で、前年度比2,696万円の減少となりました。

〔寄付金収入〕

一般寄付金としてボート部寄付金572万円、親和会からのスクールバス運行費助成金600万円を受け入れました。

〔補助金収入〕

国庫補助金、地方公共団体補助金の収入です。国庫補助金は2億5, 360万円、地方公共団体補助金は、岐阜県からの進路選択学生等支援事業等、大垣市からの中心市街地協働型まちづくり事業費合せて789万円を受け入れました。

〔資産運用収入〕

定期預金等の受取利息収入9, 651万円、本学施設設備の貸出利用料収入984万円です。

〔資産売却収入〕

有価証券の満期償還等に伴う売却額4億2, 500万円です。

〔事業収入〕

岐阜県等自治体からの委託事業7件の受託事業収入3, 577万円、その他、公開講座受講料等収入910万円です。

〔その他の収入〕

退職給与引当特定資産4, 000万円、減価償却引当特定資産5, 000万円の取崩し及び前年度退職者の退職資金交付額及び前年度受託事業費の未収入金1億2, 373万円が主な内容です。

②支出の部

〔人件費支出〕

専任教職員等の給与及び退職者への退職金支出等です。退職者の補充を行う一方、人件費の抑制を図り、前年度比7, 736万円減少しました。なお、人件費支出には、受託事業等の業務請負額2, 403万円を計上しています。

〔教育研究経費支出〕

ネットワーク・サーバ更改事業、学生への奨学事業(学費減免、私費留学生奨学金等)、語学留学助成事業、課外活動助成事業(強化・準強化指定クラブ合宿費、遠征費等)、黒板修繕費などが主な支出で6億4,700万円となりました。

〔管理経費支出〕

公共政策学科開設プレ事業費、広告費や高校巡回等の学生募集経費及び維持管理費が主な支出で1億9, 215万円となりました。

〔施設関係支出〕

3・7号館トイレのバリアフリー化改修、1号館空調改修、PAC学習室設置が主な支出で5, 211万円となりました。

GKU NOW! Vol.82
岐阜経済大学　〒503-8550 岐阜県大垣市北方町5-50　TEL.0584-77-3534　FAX.0584-81-7807　URL http://www.gifu-keizai.ac.jp/　E-mail kikaku@gifu-keizai.ac.jp
発行／岐阜経済大学企画広報課　発行日／2012年8月24日　印刷／サンメッセ株式会社

交流の輪を広げよう!!

交換留学生レポート

私の新たな挑戦

田中 健太郎さん（情報メディア学科3年 長浜農業高校出身）

▲上海財経大学の宿舎

▲観光名所天安門広場にて

私が上海財経大学に交換留学を決意した理由はいくつかあります。その1つは、一昨年に参加した中国語学研修での思い出が忘れられず留学決意の原動力となりました。また、私が岩坂ゼミで研究している内容の1つである『自動車のものづくりシステムの変化（オープン・モジュラー化）』などの分野では中国は注目されるべき国だと考えており、実際にその地に自分自身で立って1年間の経済活動をこの身で感じる事は今後の私にとっての大きな刺激になると考えたからです。

私は上海での留学生活を始めて5ヶ月目に入りましたが、特に印象に残っている事は、前学期の学期末テストでの総合成績でクラス1位を取り、終了式で受賞していただいた事や、新HSK5級（TOEFLに相当する中国政府公認の資格であり、1級から6級までレベル分けされている。）に合格できた事です。これらの経験は私の励みとなっています。

現在（7月中旬）中国では、既に夏休みがスタートしており、9月から受講予定のビジネスクラスに備えて、現地で購入した小説を読んだり、新HSK6級の勉強に励んでいます。

今後の私の目標は「新HSK6級に合格したい」と言いたいところですが、ここはあえて私自身に対して挑戦的に、「新HSK6級に必ず合格してみせます」。この目標は決して簡単には乗り越えられる壁ではありませんが、中国語の『自強不息（たゆまず努力する）』を私の座右の銘にして日々研鑽を積み、昨日とはまた違う自分を目指して歩んでいきたいと思います。

▲上海財経大学の正門にて

台湾国立政治大学の学生・先生が来学しました。

台湾の国立政治大学の学生・先生35名が、大垣市、岐阜経済大学を7月29日に訪問されました。台湾の国立政治大学は、将来、台湾の公務員や政治家となって、台湾の政治を担う有望な人材を輩出している大学です。彼らは、日本の都市計画、まちづくりに興味があり、午前中は本学でそれらに関連する講義（杉原健一教授による「都市計画に活用する3次元都市モデルの自動生成」、大垣市都市計画課の北村弘司課長による「大垣市の中心市街地活性化の取り組み」の講義）を受けました。講義の冒頭には、台湾国立政治大学の白先生による「大学紹介、活性化への取り組み」のお話をいただきました。そして、午後は大垣市の街を実際歩いて、「大垣城」、「奥の細道むすびの地記念館」を訪ね、市の歴史や実情を体験・勉強しました。大垣市、岐阜経済大学とも、これまで、これほど大人数の外国人の学生、先生の訪問は滅多になく、知的好奇心に満ちあふれた彼ら、台湾からのお客人を歓迎し、そして、有意義に勉強してもらいました。

親和会総会・父母懇談会を開催しました。

本学会場

6月16日（土）午前10時より、124名のご父母の皆様の出席を得て、2012年度親和会総会・父母懇談会を開催しました。

最初に土井田直也親和会長が、本学の学生の自主性を尊重した教育を支えたいと挨拶。続いて谷江幸雄学長は、本学の特色ある3つの教育、ゼミ教育、地域実践教育、キャリア支援教育について説明。浅野照章副理事長は、体育会系クラブの活躍や校友会の支部設立状況などを紹介、この会が父母同士の交流の場となることへの期待を述べました。

続いて議事に入り、2011年度事業計画・予算案など4案が会長・事務局から説明があった後、全会一致で承認されました。

親和会総会後、父母懇談会が開催され、第1部として、経済学部勝田美穂教授の講演が行われました。テーマは、「イイトコサガシ」を始めよう!。基礎演習などで行っている、学生をほめたり、学生同士がほめあうことで、学生に自信を持たせる試みなどを紹介、参加者のみなさんも聴き入っていました。講演後は、キャンパス見学、食堂でのランチの後、第1部終了となりました。

午後からの第2部は、山田武司学生部長が、成績・履修及び学生生活について説明。本年度から開設したPAC（公務員・教員試験総合対策講座）などを例にあげながら詳細な説明がありました。続いて、就職状況について、ハローワーク大垣からお招きした奥洞悦雄所長から、大学生の就職が厳しくなった理由や、正社員となることの重要性、父母による就職支援などについて説明がありました。

その後、3名の在学生が、それぞれのテーマについて後輩への助言を実体験に基づき語りました。教職課程受講報告（教職課程科目の内容など）について疋田洋介さん（経済学科3年）、学生生活報告（企業人育成コースでの学習やドイツへの短期留学）について越本 裕貴さん（経済学科3年）、就職活動報告（エントリーシート記載から内定までの経緯）について杉山 伶奈さん（スポーツ経営学科4年）が報告を行いました。

説明会終了後は、学年ごとの個別相談会を開催、単位取得状況や出席状況の他、就職活動や日常生活に関する質問など、各部署の担当職員がご父母の方々と懇談を行いました。

地方会場

今年度は、沖縄県那覇市「ホテルJALシティ那覇」及び静岡県浜松市「アクトシティ浜松」の2会場において開催され、計49名の方に参加いただきました。

浜松会場では、本学客員教授の鎌田實氏の公開講演会が特別に行われ「これからの日本～若者・命・経済が大切～」をテーマに相手の立場にたって行動することの大切さをお話しされ、父母の方々をはじめ148名が熱心に聴講されました。

今後も本会を大学とご父母の皆様同士のコミュニケーションの場として積極的に活用していただきたいと思います。

来年度も是非、多数のご参加をお待ちしております。

教職員人事

配置転換　2012年7月1日付

安村 千春　教務課主幹（総務課付）
坂 美穂　企画広報課主事（教務課主事）

この印刷物は、環境に優しくて安全な、針金を使用しない製本方式「ノリクル」で製本されています。